

平成23年度学校評価表

府中市小中一貫教育推進プラン

「9年間を通して、すべての子の可能性を最大限に伸ばす教育」
元気いっぱいの府中っ子の育成・かかわりの中で育つ子どもたち

- 確かな学力(考える力 正しい知識)
- 豊かな心(思いやる心 感じる心)
- 頑張る体力(丈夫な体 規則正しい生活)

1 学校教育目標

上下学園教育目標

「確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成」

上下北小学校教育目標

「伸びよう！上下北の子どもたち！感動とよろこびの教育をめざして」

《めざす子ども像》

- やる気 進んで学ぶ子ども
- 笑顔 明るく、かかわり合う子ども
- 元気 元気で、ねばり強い子ども

2 経営理念

「21世紀をたくましく生きる基礎・基本の力が定着した児童の育成」

— 地域・家庭とともに歩む学校 —

21世紀をたくましく生きぬくため、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を図る。そのため、学校の教育力を高めるとともに、家庭・地域との連携を深めながら家庭の教育力も高め、「確かな学力」「豊かな心」「頑張る体力」など、生きる力の基礎・基本の力が定着するように指導の徹底を図る。

3 研究主題

(1) 学園研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

(2) 本校研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

—問題解決場面において、筋道を立てて考える力を高める算数科学習指導の工夫—

4 今年度の重点目標及び設定理由

重点目標	設定理由
○基礎基本の学力の定着を図る。	昨年度は、県・全国の学力調査において、県平均を下回る教科があった。算数的活用問題や基礎・基本未定着児童への指導を継続し、さらに分かる授業づくりに取り組んでいく。
○ていねいな言葉遣いができる児童に育てる。	友達を大切にする言葉遣いや敬語の使い方を指導し、豊かな心を育てる。
○基礎体力の向上を図るとともに、児童の安全意識を高める。	体力テストの結果、「握力」が課題である。また、学校災害数の減少をめざし、児童の安全意識を高める取組を推進していく。

5 評価基準

- 4 (十分達成した) 目標値より5%以上高い 3 (達成した) 目標数値%
 2 (もう少し) 目標値より10%以上低い 1 (できなかった) 目標値より20%以上低い

※自己評価 : 評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。評価指標は各校で定めること。

※学校関係者評価 : ○月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である : ○、適正でない : ×、適正かどうかわからない : △として、記入する。

※この様式は、各校年間評価計画に則り、7月、12月、に活用し、中間報告はHPで公開し、最終評価結果を市教育委員会に報告すること。

推進 ラン	小 中一 貫 整 育	中期経営目標	短期経営目標	目標達成の為の手立て	評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善計画
						月 評 価	結果と課題の説明	月 適 正	意見等	改善案
確 かな 学 力	基礎・基本の学力の定着を図る。	○国語科・算数科における基礎学力を定着させる。	・漢字や計算等のドリルの時間を設定する。 ・補習を計画的に実施する	・単元末テストで85%以上達成する。 ・全国学力学習状況調査、基礎基本定着状況調査の結果を、それぞれ県平均より5ポイント上回る。						
		○家庭学習の習慣化とその充実を図る。	・漢字、計算、本読み、書くこと（高学年は自主学习）を全学年で実施する。	・家庭学習をしてくる児童の割合を90%以上にする。						
		○授業力の向上を図る。 (小中連携)	・算数科の研究を推進し、授業改善を図る。	・算数科授業で言語活動を使って表現した児童を80%以上にする。						
豊 かな 心	人とのかかわりを大切にし、思いやりのある言動ができる児童に育てる。	○読書に親しむ児童に育てる。	・朝読書と家庭読書を行う。 ・読書記録をつける。	・1・2年は月6冊以上、3年以上は月4冊以上読む。						
		○ていねいな言葉遣いができる児童に育てる。	・児童の言葉遣いを定期的に点検する。	・ていねいな言葉遣いができる児童を90%以上にする。						
		○隅々まできれいに掃除ができるようにする。	・縦割り班で掃除をする。 ・指導者が必ず掃除指導をする。	・掃除を時間いっぱいできる児童を85%以上にする。						
頑 張 る 体 力	基礎体力・運動能力の向上を図る。	○体力テストの種目が、県平均を上回るようにする。(重点課題：握力)	・課題解決に向けたサーキットトレーニングを行う。 ・鉄棒、登り棒、うんていに取り組む。	・新体力テストを年2回実施し県平均を上回る項目を65%とする。 ・逆上りのできる児童を20%向上させる。						
		○「早ね・早起き・朝ご飯」の習慣化を図る。	・アンケートを実施して、家庭への啓発を図る。	・早寝早起きの目標時刻が守れる児童80%以上にする。						
		○児童の安全意識の向上を図る。	・校内安全マップを作成して、注意力を高める。	・日本スポーツ振興センターへの申請数が10%減少する。						
学 校	信 頼 さ れ る	教職員の資質、指導力を向上させる。	○組織的に実践できる人材を育成する。	・評価表の各担当で7月と12月に進捗状況を把握して取り組む。	・自己評価の平均を7月時点では3以上、12月時点では3.5以上にする。					